

言語聴覚士養成過程における現代史教育の必要性

－自伝的記憶の活用のために－

2009.2.13

山口 信 1) 小堀晶弘 1) 杉本里佳 1) 松原慶吾 1)

1)メディカル・カレッジ青照館

[抄録]

自伝的記憶 (autobiographical memory) は人が生活の中で経験したさまざまな出来事に関する記憶の総体であり、自己機能・社会機能・指示機能などがある。自伝的記憶はラポート形成・評価・訓練の動機づけ・訓練教材の素材など言語療法において多様な利用法があると考えられる。高齢者の自伝的記憶は新近性効果により最近のものが最も再生されやすいが、ほかにレミニッセンス・バンブと呼ばれる再生のピークがある。バンブの時期は多くの研究で 10～20 歳代、また、戦争や移民などの印象的な体験の時期だとされる。たとえば 2006 年現在 80 歳の対象者のバンブは戦争体験・引き揚げ体験・10 歳～20 歳代の重なる 1940-50 年の記憶と推測される。また、認知症高齢者は現代から古い時代に健忘が進み、病期の進行につれて現実認識も過去に遡るという研究もあり、レミニッセンス・バンブを自伝的記憶の新近性効果が失われた認知症患者の言語療法に利用することは有用だと思われる。自伝的記憶を再生するためには手がかり刺激により直接・間接にエピソード記憶システムに検索する必要があるが、若い ST は高齢者のバンブを再生させるための手がかりを知識として持っているのだろうか。我々は 2006 年現在 70～90 歳の健常高齢者と ST 養成過程 1 年生の 1940 年代に関する知識を比較した。その結果、ST 養成過程における現代史教育の必要性が示唆された。

[キーワード]自伝的記憶、レミニッセンス・バンブ、手がかり、ST 養成過程、現代史教育

[はじめに]

近年、筆者らの勤務する言語聴覚士 (以下 ST) 養成校の学生 (以下 STS) で、臨床実習の際に高齢の対象者と評価・訓練を施行するに足るコミュニケーションの取れない学生がまま見受けられる。その原因はさまざまだが、少なくとも同年代とのコミュニケーションが良好なのに高齢者に対してはその能力が低い学生の場合、高齢者に対する理解不足、特にその生活史に関する知識の不足が考えられる。こうした知識の不足はその後の臨床で高齢者に接する中で次第に埋まっていくものだが、基礎知識があまりにも不足している場合には高齢者の自伝的記憶の多くが「ジャーゴン」化して ST に吸収されず、良好なコミュニケーションが形成されない懸念がある。

今回我々は、高齢者の自伝的記憶の言語療法における意義について再確認するとともに、記憶の再生の手がかりを若い世代がどの程度持ち合わせているのか、生活史に関わりの深い 1940 年代の事項について高齢者と本学 (高卒 4 年制課程) の第 1 学年の再生成績を比較し、ST 養成過程における現代史教育の必要性について考察した。

[自伝的記憶について]

自伝的記憶 (autobiographical memory) は人が生活の中で経験した、さまざまな出来事に関する記憶の総体 (Brewer:1986) と定義される。

自伝的記憶の機能について佐藤(2004)は、①自己機能②社会機能③指示機能を指摘している。自己機能は人間に自己の一貫性を与えてくれる機能である。自分の人生を一貫したライフストーリーとしてとらえようとする動機や認知は特に青年期に発達する (Habermas & Bluck, 2000)。社会機能は会話の中に自分自身の経験を盛り込む

ことで人に何かを教えたり楽しませたり、会話のリアリティを高めたり(Ross & Buehler, 1994)、集団が記憶を共有することで親密度を高めたり集団的アイデンティティを形成したりする(Holmes & Conway, 1999; 小林, 1987,1998)機能である。指示機能は経験に基づいて将来の行動を動機付けたり価値観や態度を確認する機能である(佐藤, 2000)。自伝的記憶のこうした機能は「出発点」「ターニングポイント」と呼べる(Pillemer, 2001)。

自伝的記憶は個人のライフスパンにおいてどのように分布しているかを調査すると、その分布には3つの特徴が現れる(楨, 2004)。第一に、最近10年間の出来事に関する想起率が高い現象、新近性効果と呼ばれる現象、第二に、0歳から5歳までの想起率が極めて低い、幼児期健忘と呼ばれる現象、そして、第三に、10代から30代に生じた出来事の記憶量が増加する、レミニッセンス・バンプ(回想の隆起)または単にバンプと呼ばれる現象である(図1)。

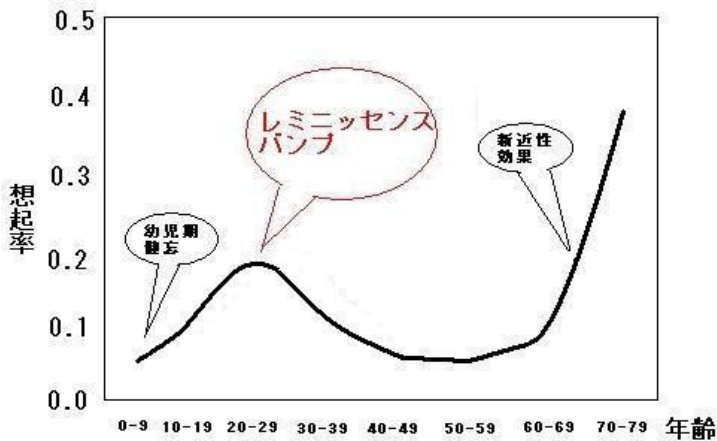


図1：レミニッセンス・バンプ

バンプの時期については多くの研究が20歳代をピークとしている(Rubin & Schulkind:1997a, 1997b; Rubin, Rahhal, & Poon:1988; Holmes & Conway:1999)が、できるだけ過去のことを思い出すよう教示した研究(Jansari & Parkin:1996)ではバンプのピークは10代前半とされ、匂いを手がかりにした研究(Chu & Downes:2000)ではバンプのピークは10歳未満としている。また、戦争や移民を経験した世代ではその時期にピークがある(Conway & Haque:1999; Schrauf & Rubin:1998)とする研究もある。

たとえば、2006年現在80歳の高齢者のバンプは年齢から考えれば1930-50年であり、印象的な出来事で考えれば戦争や引き揚げを経験した1930-1946年ということになり、いずれにせよ、1940年代の出来事はよく想起することができる(図2)。

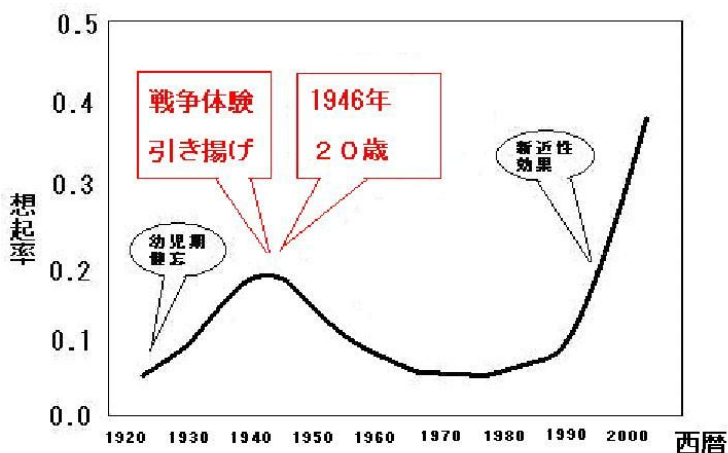
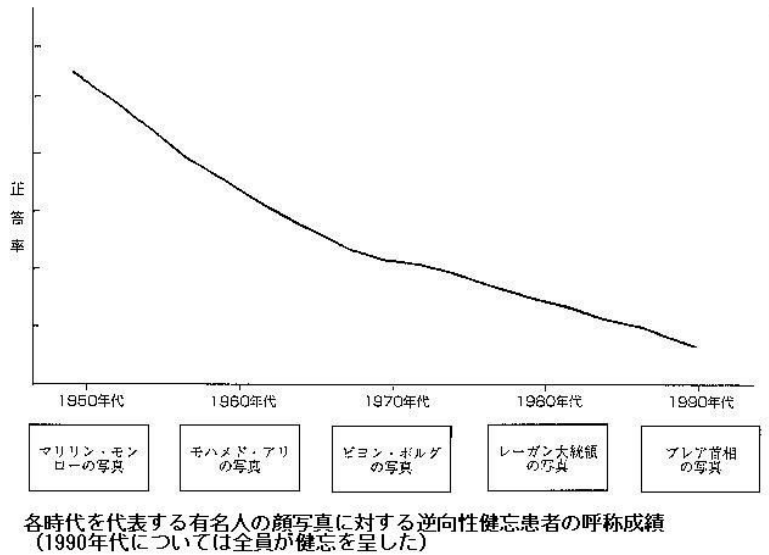


図2：2006年現在80歳の対象者のレミニッセンス・バンプ

俗に「お年寄りには昔のことはよく覚えている」と言われるが、実際に近時記憶の衰えてくる高齢者の特徴を考えれば、バンプに蓄えられた記憶を活用することは極めて重要となってくる。

記憶は古いものより新しいものが、単純なものより複雑なものが、安定した記憶よりあやふやなものが先に失われるという「リボーの法則」はよく知られている。

Parkin(1999)は逆向性健忘患者の記憶には時間勾配という現象があることを指摘した(図3)。この現象はエピソード記憶と意味記憶の両者について認められるという(Butters:1984, Verfaellie & Roth:1996)。



(図4) 記憶の時間勾配 (Parkin:1999)

認知症高齢者の場合現代から古い時代に健忘が進む、病期の進行につれて認知症患者の現実認識も過去に遡る(山中ほか:1997)という研究もあり、STが接することの多い認知症患者の言語療法においてバンプがいつ頃に当たるのかを知り、豊富な自伝的知識を利用することは困難を極める認知症患者の訓練にとって大きな手がかりとなりうるだろう(図4)。

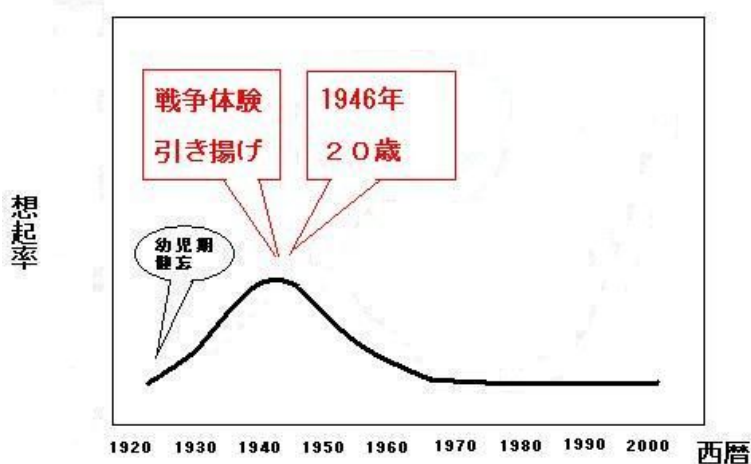


図3 : 2006年現在80歳の認知症患者の自伝的記憶

[自伝的記憶の言語療法への活用]

①レポート形成：自伝的記憶の言語療法への活用の第一と考えられるのはレポートの形成である。自伝的記憶の傾聴は生活史に関する情報収集となるだけでなく、その社会的機能により ST と対象者の親密度や共同体としての動機づけを高める効果がある。対象者に「この ST は自分に関心を持って共に歩もうとしてくれている」という印象を持っていただくわけである。

症例1：筆者が臨床にいたとき、学生にある患者さんを持たせたところ失礼な言動があつて拒否が出てしまった。謝罪がてらベッドサイドに行つて海軍飛行学校の教官だった患者さんの経歴について傾聴したところ、立腹していた患者さんが翌日から学生の教育を含めて極めて協力的になったという経験がある。

②治療への動機づけ：自伝的記憶は、その出来事を経験したときと類似した状況で想起され、行動や判断を決めるのにも役立つ(Pillemer: 1998, 2001)。回想による自己高揚感(Wilson & Ross:2003)も治療の動機づけの一因となりうる。対象者を「あの苦しい時代を生き抜いてきたのだから、この程度の病気に負けないでリハを頑張ろう」という気になっていただくわけである。

症例2：訓練に意欲がわかず、拒否的なため経管栄養から離脱できない患者さんがいた。筆者は間接訓練を継続しながら回想的映像を見せていた。あるとき、『人生の並木道』という歌を聴いて兄に連れられて故郷から出てきたときの記憶が蘇り、そのときの経緯を大変熱心に筆者に話した（「出発点」「ターニングポイント」の確認）。その後訓練に意欲的になり経管栄養から離脱した。

③言語療法の教材：対象者にとって親しみのある事項を採用することで、訓練意欲を高める。親しみのある単語のほうが思い出しやすい傾向にあるということは多くの ST が経験していることであろう。また、森岡（1996）は、慢性期において実用的言語力を向上させるためには、包括的言語と実用的言語の練習に加えて、言語的活動を高めることが特に重要であると述べているが、これにも自伝的記憶を利用することができる。「言語療法は嫌だがあの ST とのレクリエーションや昔話は楽しい」と思っていただけでも、拒否的な対象者の言語能力の改善の足がかりとして重要である。

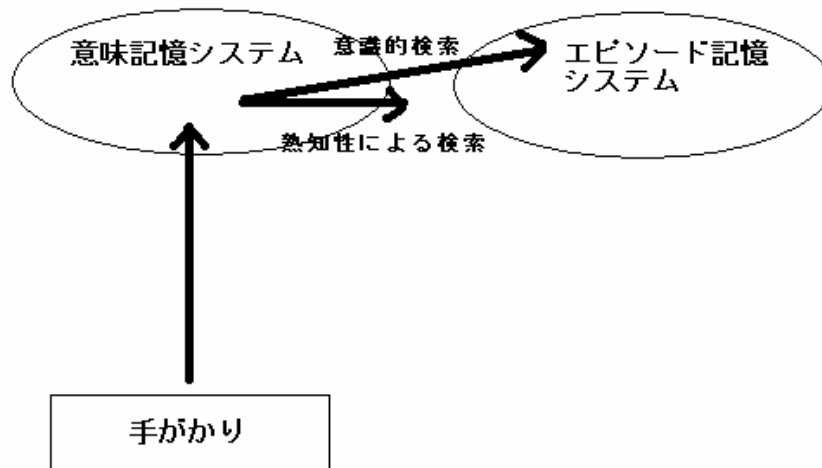
症例3：筆者が慢性期病院に入職した当時、ST がいないため発症後6年間まったく言語療法を受けずにスタッフから全失語だと思われていた患者さんがいた。意味のある発話はなく、意思表示の手段は拙劣な指差しのみで、ST 室に来てもらうたびに「あいく、あいく」と言いながら部屋の出口を指差し、拒否的な態度であった。この患者さんの発語失行に対して Melodic Intonation Therapy を施行し、「おはよう」「こんにちは」などのあいさつが可能になってから地図・昔の映像・戦死した配偶者の載っている書籍などを材料に回想的 Free Talking を行った。集団的回想訓練を併用した。6ヶ月後には簡単な会話が可能になり、音声言語で「行きまっしょい」「帰るか」などと意思表示することもあるようになった。

[若い STS は高齢者の自伝的記憶につながる手がかりを持ち合わせているか]

記憶の想起に関しては、項目や事象の記憶に必要な符号化条件と検索条件の関係に関する一般原理である符号化特定性原理がある (Tulving:1983)。すなわち、符号化操作が効果的であるか否かは検索の手がかりに左右され、検索手がかりが効果的であるか否かは符号化時の条件操作によって変化する。記銘時の文脈に基づいて符号化された情報（記憶痕跡）と検索時の手がかりが一致するとき、記銘した情報は最もよく再現される。自己に関連づけた刺激語は意味的な処理を行った刺激語に比較してその後の記憶成績が高くなるという、自己関連づけ効果も、この文脈で説明することができる。

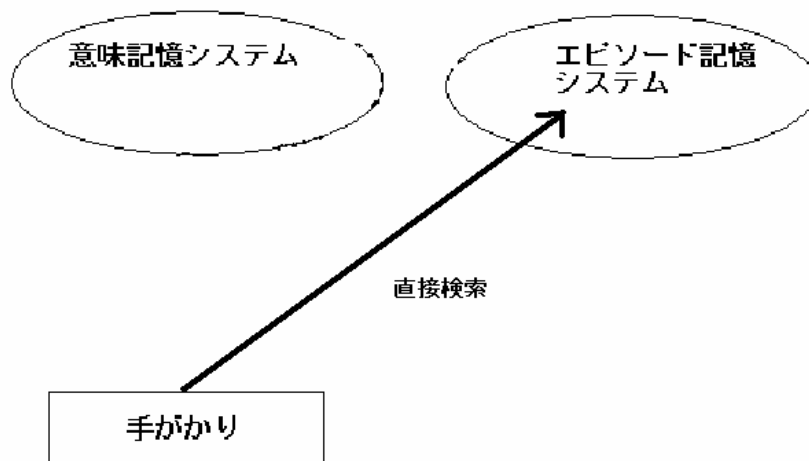
自伝的記憶の想起プロセスに関して堀内（2002）は、自己関連づけ効果のパラダイムを使用して、自伝的記憶の想起プロセスが Jacoby & Hollingshead (1990)の生成・再認モデル（図5）に適合するか否かを検証した。自伝的想起のプロセスにはほかに循環的検索モデル (Conway & Rubin:1993) があり、また、繰り返し想起され、個人の持つ態度や価値観に沿った形に変容し半概念化した自伝的記憶の検索に関しては意味記憶からの検索モデル

(多次元処理モデル：堀内, 1998) を適用したほうが適切だという意見もある。刺激語が記録時に符号化されたものと近似していれば(近親者による刺激の場合など)、直接エピソード記憶に検索が行われる可能性が近くなる(図6)(堀内：2004)。



間接検索を喚起する手がかりを用い、意図的に想起した場合

図5：自伝的記憶の間接検索による生成・再認モデル



手がかりが記録時に符号化したものと類似している場合

図6：自伝的記憶の直接検索による生成・再認モデル

いずれにしても、自伝的記憶を想起するためには何らかの手がかりが必要であり、その手がかりの性質が自伝想起のプロセスを規定する(堀内：2004)。

だとすれば、高齢者の自伝想起をスムーズにし、それを言語療法に利用するためには、ST側がそのための有効な手がかりについて熟知している必要がある。

それでは、筆者の勤務する学校に通学してくる STS は、高齢者の自伝的記憶を想起させる手がかりや、想起させた記憶を言語療法に利用する方法を持ち合わせているのだろうか。

我々は今想起の手がかりとなりうる知識について調査と考察を行った。以下にその概要を示す。

[対象]

①筆者の勤務する言語聴覚士養成校の第一学年の学生 39 名。最低 19 歳、最高 31 歳、平均 20.7 歳。

②某地域の老人会に所属する、明らかな知的障害や言語障害のない在宅高齢者 21 名。最低 67 歳、最高 82 歳、平均 75.7 歳。

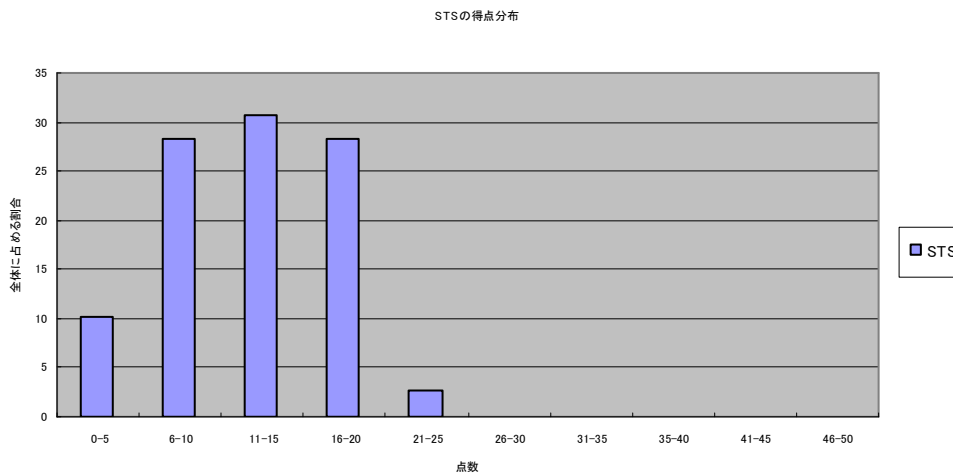
[方法]

1940 年代には一般的であった事物や人物、知識に関するクイズ 50 問（別紙）を解いてもらい、その結果を比較した。

[結果]

①STS の結果

最高点 24 点、最低点 4 点、平均 12.17 点。得点の分布は（図 7）の通り。



(図 7)

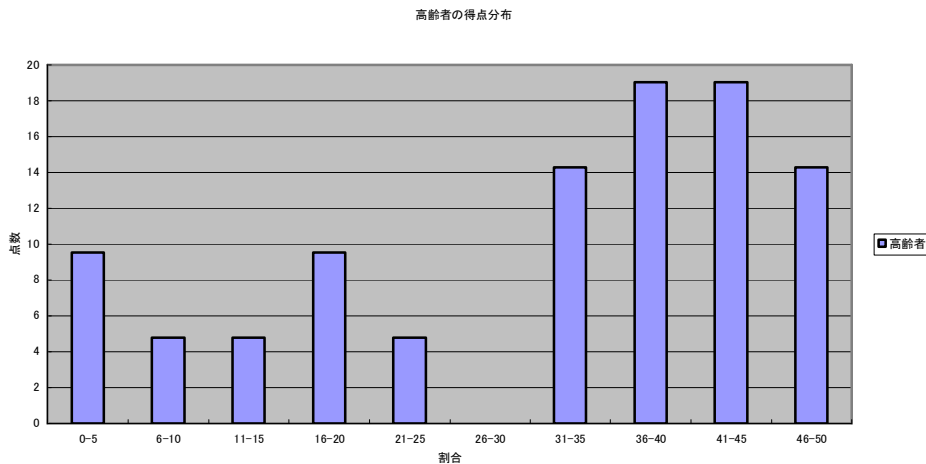
問題別の正答率は[別紙 2]の通り。なお、問題 27-29、39.40、47-49 は順不同の複数回答なので全て合計して問題数で割った平均である。

正答率の上位 10 問は 1. 自分の生年月日 (100%)、2. 自分の小学校 (100%)、3. 電気洗濯機以前の洗濯道具 (84.6%)、4. 原爆投下の場所 (84.6%)、5. 太平洋戦争開始の場所 (69.2%)、6. 進駐軍の司令官 (64.1%)、7. 片道燃料を積んで沖縄に向かった戦艦 (61.5%)、8. 学童の爆撃からの保護策 (56.4%)、9. 終戦の月 (43.6%)、10. 日本を爆撃した米軍の爆撃機 (38.5%) であった。

正答率の下位 10 問は 1. 飯を入れる器、2. 高等小学校の学制、3. 映画の昭和初期の呼称、4. 戦前熊本市にあったデパートの名前、5. 日本選手が戦前の五輪で活躍した種目、6. 徴兵検査で最も適性があると判断された場合の合格名、7. 太平洋戦争開始の日、8. 太平洋戦争の開戦当時の呼称、9. 大戦初期に活躍した陸軍の戦闘機、10. 終戦を告げる放送の呼称で、いずれも正答がなかった。

②高齢者の結果

最高点 47 点、最低点 0 点、平均点 33.0 点。得点の分布は (図 8) の通り。



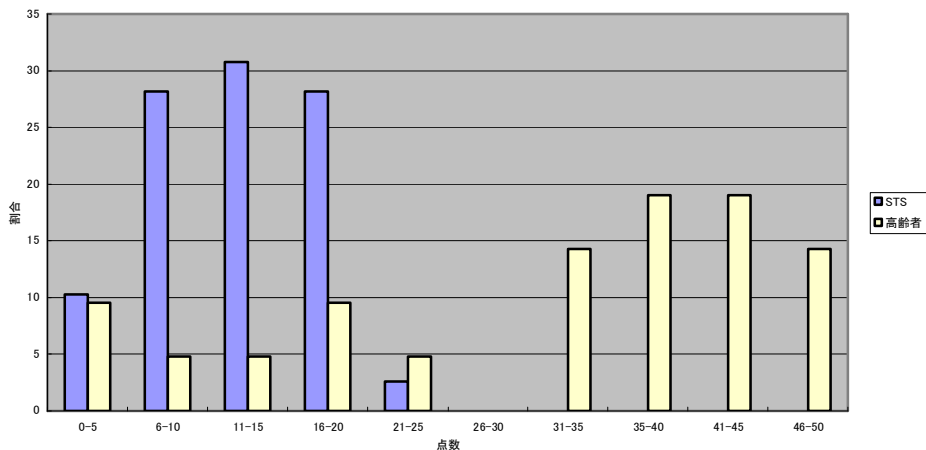
(図 8)

問題別の正答率は[別紙 2]の通り。

正答率の上位 10 問は、1. 自分の生年月日 (90.5%)、1. 米を炊く道具 (90.5%)、1. 電気洗濯機以前の洗濯道具 (90.5%)、4. 自分の出身小学校 (85.7%)、4. 日本を爆撃した米軍の爆撃機 (85.7%)、6. 炊いた飯を入れる道具 (81.0%)、6. 学業成績の指標 (81.0%)、6. 太平洋戦争開始の場所 (81.0%)、9. 学童の爆撃からの保護策 (81.0%)、10. 太平洋戦争開戦当時の海軍の司令長官 (76.2%)、10. 海軍の巨大戦艦 (76.2%)、10 原爆の投下場所 (76.2%)、10. 終戦の日 (76.2%)、10. 進駐軍の司令官 (76.2%)、10. 戦前の日本の領土 (76.2%) であった。

正答率の下位 10 問は、1. 原爆の当時の呼称 (9.5%)、2. 中学校の学制 (14.3%)、3. 太平洋戦争開戦の日 (23.8%)、3. 高等小学校の学制 (23.8%)、5. 大戦初期に活躍した海軍の戦闘機 (33.3%)、5. 戦前の日本の得意だったスポーツ (33.3%)、7. 小学校の戦争中の呼称 (42.9%)、7. 昭和 6 年からの日本の交戦国 (42.9%)、当時の親が子に期待した職業 (42.9%)、10. 「東海林太郎」の読みがな (47.6%)、10. 昭和 9 年に来日した米国の野球選手 (47.6%) であった。

③STS と高齢者の結果の比較



(図 9)

両者の得点分布を重ねたものが図9である。STSの得点が11-15点をピークとして低い部分に集中しているのに対して、高齢者では35-45点にピークがあり、高得点から低得点まで点数にばらつきがあった。

STSと高齢者の成績にあまり差のない項目は、自分の生年月日、自分の出身校など、自伝的意味記憶と呼ばれるようなものであった。また、太平洋戦争開始の場所、原爆投下の場所など、学校教育やメディアでも繰り返し取り上げられ、もはや民族的な記憶と呼べるようなものも差が少なかった。(表1)

問題	内容	STS(%)	高齢者(%)	平均の差
1	自分の生年	100	90.5	9.5
6	自分の出身小学校	100	85.8	14.2
4	洗濯の道具	84.6	90.5	-5.9
39-40	原爆の投下場所	84.6	76.2	8.4
26	太平洋戦争開始の場所	69.2	81.0	-11.8
46	進駐軍の司令官	64.1	76.2	-12.1
38	海軍の巨大戦艦	61.5	76.2	-14.7
34	学童の爆撃からの保護	56.4	81.0	-24.6

(表1)

一方、飯を入れる器、戦前熊本市にあったデパートの名前、当時の有名人など、当時は一般的な知識であったが、現在ではそれに関してSTSが情報に触れることが極めて少ないものは、STSに正解者がいなかったのに対して、多くの高齢者において記憶としてしっかり保持されていた。(表2)

問題	内容	STS(%)	高齢者(%)	平均の差
3	炊いた飯を入れる道具	0	81.0	-81.0
32	日米開戦当時の日本海軍の司令官	2.6	76.2	-73.6
19	ブルースの女王と呼ばれた歌手の名前	5.1	71.4	-66.3
50	日米開戦当時の首相	5.1	71.4	-66.3
24	太平洋戦争開始の月	2.6	66.7	-64.1
21	兵士としての適性が高い者の徴兵検査合格種	0	61.9	-61.9
47-49	戦前の日本の領土	15.4	76.2	-60.8
7	学業成績の指標	20.5	81.0	-60.5
13	映画の別名	0	57.1	-57.1
14	戦前熊本市にあったデパートの名前	0	57.1	-57.1
36	大戦初期に活躍した陸軍の戦闘機	0	57.1	-57.1
45	天皇の声の尊称	0	57.1	-57.1

(表2)

[考察]

今回の調査の対象者は、「STになりたい」と考えて入学してきた学生と、地域で生活し通常の老人より高い勉強意欲と知的能力を持ち合わせた高齢者である。したがって、両者の比較をただちに高卒年齢の若者と高齢者全体に敷衍することはできない。

しかし、今回対象になった高齢者の方々が STS の対象者となることは十分にありうることで、そうした場合には STS と対象者とのミスマッチが起こる可能性は大いにある。

そうした視点で今回の結果を考えると、入学 9 ヶ月段階での若い STS は高齢者の自伝的記憶の想起の手がかりとなる十分な知識を持ち合わせているとは言いがたい。それどころか、良好なコミュニケーションが成立するのだろうかという疑念すら生ずる。

これには、「もはや戦後ではない」と表現した 1956 年経済白書からさらに 50 年が経過し、戦争体験者が少なくなり、社会全体から 1940 年代の記憶が薄れつつある時代風潮が影響している。また、障害のある高齢者の多くが施設で生活する医療事情や、希薄になる家族関係により、若い STS が高齢者とのふれあいの少ない環境で生育してきたという事情もあろう。

これらの知識は今後彼らが臨床に出る中で徐々に習得していくことが考えられるが、その過程でのトラブルや彼ら自身の悩みを軽減する必要があると考える。

さらに、ST 一人当たりの受け持ち対象者が増加し、一人当たりの訓練にかかる時間が少なくなっているという訓練環境により、これらの STS が臨床に出ても高齢者の生活史に関する知識を十分に持ち合わせぬまま、十分なコミュニケーションをとらず、機能訓練に終始する恐れもある。

こうしたことを考えれば、本調査で養成校でのカリキュラムに何らかの形で現代史教育を組み込むことの必要性が示唆されたといえるであろう。

ただし、この教育は「歴史マニア」を作ることが目的ではない。あくまでも評価・治療に利用できる生きた知識を得ることが目的である。具体的には、STS に高齢者への共感性を醸成し、STS が ST になっていく過程でスムーズなレポート形成ができ、自伝的記憶を訓練の動機づけに利用したり、より有効な治療方法・教材開発の基礎作りをしたりする能力を身につけさせることである。

注目すべきことは、この調査の過程で、老若を問わぬ少なからぬ関係者が、自らの現代史に関する知識を問われることに強い抵抗を示したことである。このことは歴史=勉強として自伝的記憶の中にネガティブな感情と共に記憶が位置づけられている人が相当数いることを示唆する。こうした知識に関する教育の困難性にも思いをいたす必要がある。

今後、若い STS に臨床で使用できるような生きた現代史の知識を身に付けさせるためには、できるだけ若者の共感を得られる教材を用いた講義や、健常高齢者とのコミュニケーション可能な環境を作ること：地域活動、傾聴ボランティア、長期の介護実習などが必要となると考える。

[文献]

- Brewer, W. F. : What is autobiographical memory? In D. C. Rubin(Ed.), *Autobiographical Memory*.
Butters, N. : Alcoholic Korsakoff syndrome: An update. *Seminars in Neurology*, 4, 226-244. 1984.
Cambridge: Cambridge University Press. 1986.
- Chu, S., & Downes, J. J. : Long live Proust: The odour-cued autobiographical memory bump. *Cognition*, 75, B41-B50. 2000.
- Conway, M. A. & Haque, S. : Overshadowing the reminiscence bump: Memories of a struggle for independence. *Journal of Adult Development*, 6, 35-44. 1999
- Conway, M. A. & Rubin, D. C. : The structure of autobiographical memory: In A. F. Collins, S. E. Gathercole, M. A. Conway & P. E. Morris (Eds.), *The theories of memory*, 103-137. Hove, East Sussex: Lawrence Erlbaum Associates. 1993.
- Habermas, T. & Bluck, S. Getting a life: The emergence of life story in adolescence. *Psychological Bulletin*, 126, 748-769. 2000.
- Holmes, A. & Conway, M. A. Generation identity and the reminiscence bump: Memory for public and private events. *Journal of Adult Development*, 6, 21-34. 1999.
- Jacoby, L. L. & Hollingshead, A. : Toward a generate/recognize model of performance on direct and indirect tests of memory. *Journal of Memory and Language*, 29, 433-454. 1990.
- Jansari, A. & Parkin, A. J. : Things that go bump in your life: Explaining the reminiscence bump in autobiographical memory. *Psychology & Aging*, 11, 85-91. 1996.
- 堀内 孝 : 自己認知の多次元性と自己関連付け効果. *心理学研究*, 68, 484-490. 1998.
- 堀内 孝 : 自己記述課題と自伝想起課題の区分に関する研究—潜在指示における概念駆動テストを使用した検討— . *心理学研究*, 73, 82-87. 2002.
- 堀内 孝 : 自伝想起の生成・再認モデル : 自伝的記憶の機能, p13-14, 群馬大学教育学部, 2004
- 小林多寿子 : (都市化) とノスタルジー—都市における奄美出身者の心性—. *年報人間科学 (大阪大学人間科学部)*, 8, 23-40. 1987.
- 小林多寿子 : 戦争体験と自分史—「記憶の共同体」を求めて—. *日本女子大学紀要人間社会学部*, 8, 127-140. 1998.
- 榎 洋一 : ライフスパンにおける自伝的記憶の分布—レミニセンス・バンプの研究に関する問題—自伝的記憶の機能, p6, 群馬大学教育学部, 2004
- 森岡悦子 : 失語症者の実用的言語力の向上に関与する因子の検討—特に言語的活動に注目して—, *音声言語*, 37.04, 1996.
- Parkin, A. J. : *Memory: A Guide for Professionals*. John Wiley & Sons, Ltd. 97-99. 1999.
- Pillemer, D. B. Directive functions of autobiographical memory: The guiding power of the specific episodes. *Memory*, 11, 193-202, 2003.
- Ross, M. & Buehler, R. On authenticating and using personal recollection. In N. Schwarz & S. Sudan(Eds.), *Autobiographical memory and the validity of retrospective reports*, 55-69. New York, NY: Springer-Verlag. 1994.
- Rubin, D. C., Rahhal, T. A., & Poon, L. W. : Things learned in early adulthood are remembered best. *Memory & Cognition*, 26, 3-19. 1998.
- Rubin, D. C. & Schulkind, M. D. : Distribution of important and word-cued autobiographical memories in 20-

- 35-, and 70-year-old adults. *Psychology & Aging*, 12, 524-535.1997a.
- Rubin, D. C. & Schulkind, M. D. : The distribution of important autobiographical memories across the lifespan. *Memory & Cognition*, 25, 859-866.1997a.
- 佐藤浩一:思い出の中の教師—自伝的記憶の機能分析—群馬大学教育科学部紀要 人文・社会科学編, 49, 357-378. 2000.
- 佐藤浩一:自伝的記憶研究の理論と方法. 佐藤浩一 (編):自伝的記憶の機能, p3, 群馬大学教育学部, 2004b
- Schrauf, R. W. & Rubin, D. C. : Bilingual autobiographical memory in older adult immigrants: A test of cognitive explanations of the reminiscence bump and the linguistic encoding of memories. *Journal of Memory & Language*, 39, 437-457. 1998.
- Tulving, E. : *Elements of episodic memory*. Oxford University Press. 1983. 大田信夫 (訳) : タルヴィングの記憶理論. 教育出版, 1985.
- 山中克夫ほか:痴呆の病期の進行とともに現実認識は過去に遡るのか: 神経心理, 13. 03, 要旨, 1997
- Verfaellie, M. & Roth, H. L. : Knowledge of English vocabulary in amnesia. *Journal of the International Neuropsychological Society*, 1, 443-453. 1996.
- Wilson, A., & Ross, M. : The identity function of autobiographical memory: Time is on our side. *Memory*, 11, 137-149. 2003.

[抄録]

自伝的記憶 (autobiographical memory) は人が生活の中で経験したさまざまな出来事に関する記憶の総体であり、自己機能・社会機能・指示機能などがある。自伝的記憶はラポート形成・評価・訓練の動機づけ・訓練教材の素材など言語療法において多様な利用法があると考えられる。高齢者の自伝的記憶は新近性効果により最近のものが最も再生されやすいが、ほかにレミニッセンス・バンプと呼ばれる再生のピークがある。バンプの時期は多くの研究で 10～20 歳代、また、戦争や移民などの印象的な体験の時期だとされる。たとえば 2006 年現在 80 歳の対象者のバンプは戦争体験・引き揚げ体験・10 歳～20 歳代の重なる 1940-50 年の記憶と推測される。また、認知症高齢者は現代から古い時代に健忘が進み、病期の進行につれて現実認識も過去に遡るという研究もあり、レミニッセンス・バンプを自伝的記憶の新近性効果が失われた認知症患者の言語療法に利用することは有用だと思われる。自伝的記憶を再生するためには手がかり刺激により直接・間接にエピソード記憶システムに検索する必要があるが、若い STS は高齢者のバンプを再生させるための手がかりを知識として持っているのだろうか。我々は 2006 年現在 70～90 歳の健常高齢者と ST 養成過程 1 年生の 1940 年代に関する知識を比較した。その結果、ST 養成過程における現代史教育の必要性が示唆された。

[キーワード] 自伝的記憶、レミニッセンス・バンプ、手がかり、ST 養成過程、現代史教育

[Abstract]

Autobiographical memory is the whole of the memory concerning various events that the person experienced in life, and has a self-function, a social function, and the referential function, etc. Autobiographical memories are thought for various uses to exist in the language treatment like the material etc. of motivation and the training teaching material of the rapport formation, the evaluation, and training. Besides, there is a peak of the reproduction that is called 'reminiscence bump' though the recent one are reproduced easily by the recent effects most as for the elderly autobiographical memories. It is assumed by a lot of researches that the time of the bump is time when one's from 10-20 years, or the impressive experiences, for example, the war and the emigrations, etc. For instance, the bump of the object person of 80 years old as of 2006 a war experience, a repatriation experience, and in 10-20 years old, is guessed a memory of 1940-50 years. Moreover, it seems that the dementia elderly also has the research that real recognition goes back to the past as advances in an old age at the present age, and progresses, and it is useful to use the reminiscence bump for the language treatment of the dementia patient from whom the recent effect of an autobiography memory was lost. Do young students in the training process of speech-language-hearing therapist (ST) have the cue to reproduce senior citizen's bump as knowledge though the hand should retrieve to the episode storage system by the debt stimulation directly and indirectly to reproduce an autobiographical memory? We compared a healthy senior citizen of 70-90 years old with knowledge concerning 1940's of the students in first ST training process grader as of 2006. As a result, the necessity of the history education of the present age in the ST training process was suggested.

[Key word] autobiographical memory, reminiscence bump, cue, training process of speech-language-hearing therapist, history education of present age

別紙1]

思い出してください！あの日のことを。－なつかしの昭和クイズ－

男 ・ 女 [ご自分の性別に丸をおつけください]

(1 年) [ご自分の生年をお書きください]に生まれた私。お母さんのおっぱいを吸^すって、元気に育ちました。やがて歩けるようになって、お母さんのまわりをちよろちよろ。お母さんは(2) [道具の名前]でたいたごはんを(3) [道具の名前]に入れて、そこからしゃもじでおちゃわんによそって家族に食べさせていました。まだ洗濯機^{せんたくき}がなく、(4) [道具の名前]でごしごしと洗濯^{せんたく}していました。お父さんは(5) [商品名]というコウモリの絵^{えい}の包装^{ほうそう}のタバコを吸っていました。このタバコは戦争中は「金鷄^{きんし}」と改名されました。6歳になって(6 小学校) [ご自分の入学した小学校をお書き下さい]に入学。成績^{せいせき}は一番良いのが(7) [漢字1文字]、次が(8) [漢字1文字]、次が丙、一番悪いのが丁^{てい}でした。両親^{りょうしん}は「末^{すえ}は(9) [職業名]か、(10) [職業名]か」と期待^{きたい}していましたが、(11 年制) [数字]の中学校^{じょがっこう}や女学校に進めるのは一握^{ひとにぎ}りの人でした。小学校^{しょうがっこう}高等科を(12 年) [数字]で出た私は、近くの工場^{こうじょう}で働き始めました。たまの休みには当時(13 写真) [当時の呼び方]といわれていた映画^{えいが}を見、熊本市にあった(14) [店名]百貨店^{ひやっかてん}でライスカレーを食べました。ニュース映画では大リーグのスター(15) [野球選手名]が来日し、それを日本の天才^{てんさい}投手^{とうしゅ}(16) [野球選手名]が迎え撃^{むか}ったことや、日本選手団^{せんしゅだん}がロサンゼルスやベルリンのオリンピックで活躍^{かつやく}し、(17 ニッポン) [競技種目名]と呼ばれていることなどを報じていました。街には直立不動^{ちよくりつふどう}でまたたび^{またたび}の歌を歌う(18 東海林太郎：) [読みがなをお書きください]や「ブルースの女王」と呼ばれて「雨のブルース」や「別れのブルース」などを歌った(19) [歌手名]の歌が流れていました。男は(20 歳) [数字]になると徴兵^{ちようへい}検査^{けんさ}があり、身体^{しんたい}頑健^{がんけん}で兵隊^{へいたい}として適^{てき}しているという(21 合格) は大変^{たいへん}名誉^{めいよ}なことで、みんなに自慢^{じまん}していました。(22) [国名]との戦争^{せんそう}は

昭和6年から続いていましたが、ついに（23 昭和 年）（24 月）（25 日）[数字]、日本軍がハワイの（26 ）[地名]を攻撃したことにより、（27 ）（28 ）（29 ）[国名]と戦った（30 ）[当時の呼び方]戦争が始まりました。戦時色が強くなり、小学校は（31 ）[当時の呼び方]に改名しました。最初は連戦連勝で、山下奉文大将がシンガポールを陥落させたときは私たちもちょうちん行列にかり出されました。しかし、しだいに戦局は悪化し、連合艦隊司令長官（32 大将）[人名]の乗る飛行機が撃墜されて戦死されると、国民は深い悲しみに包まれました。やがて日本本土も（33 爆撃機）[飛行機名]による爆撃にさらされるようになり、小中学生を被害から守るために地方で生活させる（34 学童）も始まりました。戦争の初めには活躍していた海軍の（35 戦闘機）[飛行機名]や陸軍の戦闘機で「加藤（36 ）[飛行機名]戦闘隊」で有名な一式戦闘機も敵機に歯が立たなくなり、ついに敵艦への体当たり攻撃である（37 攻撃隊）が始まりました。片道燃料で出撃した（38戦艦）[船名]も撃沈されて沖縄も敵の手に落ちる中、（39 ）（40 ）[地名]に（41 ）[当時の呼び名]と呼ばれた原子爆弾が投下され、ついに日本はポツダム宣言を受諾、（42 昭和 ）（43 月）（44 日）[数字]、天皇陛下が国民に直接話しかける（45 放送）[天皇の声を敬って言った言葉]によって長い戦争が終わりました。悲しみと同時に、ほっとする気持ちもありました。進駐軍の最高指令長官（46 ）がコーンパイプをくわえて厚木の飛行場に降り立ち、天皇陛下と並んで立った記念写真が日本人に衝撃を与えました。「外地」といわれ戦前は日本の領土だった（47 ）（48 ）（49 ）[地名または国名]などは日本の領土でなくなり、続々と引き揚げが始まりました。近衛文麿や開戦当時首相だった（50 ）[人名]が戦争犯罪人として極東軍事裁判で裁かれました。戦後の復興が始まり、私も一生懸命働きました。

[別紙2] STS と高齢者の問題別正答率

問題	内容	STS	%	高齢者	%	平均の差
1	自分の生年	39	100	19	90.47619	9.52381
2	米を炊く道具	16	41.02564	19	90.47619	-49.4505
3	飯を入れる道具	0	0	17	80.95238	-80.9524
4	洗濯の道具	33	84.61538	19	90.47619	-5.86081
5	タバコの名前	1	2.564103	11	52.38095	-49.8168
6	自分の小学校	39	100	18	85.71429	14.28571
7	学校の成績	8	20.51282	17	80.95238	-60.4396
8	学校の成績	8	20.51282	16	76.19048	-55.6777
9	期待される職業	1	2.564103	9	42.85714	-40.293
10	期待される職業	2	5.128205	11	52.38095	-47.2527
11	中学校の学制	2	5.128205	3	14.28571	-9.15751
12	高等小学校の学制	0	0	5	23.80952	-23.8095
13	映画の別名	0	0	12	57.14286	-57.1429
14	デパートの名前	0	0	12	57.14286	-57.1429
15	米国の野球選手	14	35.89744	10	47.61905	-11.7216
16	日本の野球選手	9	23.07692	11	52.38095	-29.304
17	日本の得意種目	0	0	7	33.33333	-33.3333
18	東海林太郎の読み仮名	5	12.82051	10	47.61905	-34.7985
19	ブルースの女王と呼ばれた歌手の名前	2	5.128205	15	71.42857	-66.3004
20	徴兵年齢	10	25.64103	13	61.90476	-36.2637
21	徴兵の適性	0	0	13	61.90476	-61.9048
22	日中戦争の敵国	3	7.692308	9	42.85714	-35.1648
23	太平洋戦争開始の年	3	7.692308	11	52.38095	-44.6886
24	太平洋戦争開始の月	1	2.564103	14	66.66667	-64.1026
25	太平洋戦争開始の日	0	0	5	23.80952	-23.8095
26	太平洋戦争開始の場所	27	69.23077	17	80.95238	-11.7216
27	太平洋戦争の敵国	13	33.33333	11	52.38095	-19.0476
28	太平洋戦争の敵国	13	33.33333	11	52.38095	-19.0476
29	太平洋戦争の敵国	13	33.33333	11	52.38095	-19.0476
30	太平洋戦争の当時の呼称	0	0	11	52.38095	-52.381
31	小学校の戦争中の呼称	1	2.564103	9	42.85714	-40.293
32	日本海軍の司令官	1	2.564103	16	76.19048	-73.6264
33	米軍の爆撃機	15	38.46154	18	85.71429	-47.2527
34	学童の爆撃からの保護	22	56.41026	17	80.95238	-24.5421
35	海軍の戦闘機	1	2.564103	7	33.33333	-30.7692
36	陸軍の戦闘機	0	0	12	57.14286	-57.1429
37	自爆攻撃の呼称	11	28.20513	13	61.90476	-33.6996
38	海軍の戦艦	24	61.53846	16	76.19048	-14.652
39	原爆の投下場所	33	84.61538	16	76.19048	8.424908
40	原爆の投下場所	33	84.61538	16	76.19048	8.424908
41	原爆の当時の呼称	4	10.25641	2	9.52381	0.732601
42	終戦の年	7	17.94872	14	66.66667	-48.7179
43	終戦の月	17	43.58974	15	71.42857	-27.8388
44	終戦の日	14	35.89744	16	76.19048	-40.293
45	天皇の声の尊称	0	0	12	57.14286	-57.1429
46	進駐軍の司令官	25	64.10256	16	76.19048	-12.0879
47	戦前の日本の領土	6	15.38462	16	76.19048	-60.8059
48	戦前の日本の領土	6	15.38462	16	76.19048	-60.8059
49	戦前の日本の領土	6	15.38462	16	76.19048	-60.8059
50	開戦当時の首相	2	5.128205	15	71.42857	-66.3004

